



TITLE:

<批評・紹介> 那波利貞著「中華思想」

AUTHOR(S):

藤田, 至善

CITATION:

藤田, 至善. <批評・紹介> 那波利貞著「中華思想」. 東洋史研究 1937, 2(3): 269-270

ISSUE DATE:

1937-02-23

URL:

<https://doi.org/10.14989/138731>

RIGHT:

中華思想

那 波 利 貞 著

著者は先づ古來支那人が自國を指す呼稱に夏・諸夏・中夏の一團と華・中華・華夏の一團と中州・中國・中原・中土の一團との三系統が存することを指摘し、この内、「夏」の系統が最も古きもので、こゝに中華思想の起源を探究せんとしてゐる。即ち商・周と等しく「夏」は地名に淵源する。而して今日の河南省中部地方がこれに當る。「夏」の字については蟬の象形なりとの説と中國人の象形なりとの説とがあるけれどもこれ等は「夏」の字の出來た後の解釋である。「夏」は本來地名で、夏伯たりし禹

が即位の後本來の地名を以て國號としたものである。この地は黃河流域に位し、地理的に見て天下の中央であり、殷・周と王朝は變じて、その支配した地域は依然「夏」の地であるため、「夏」の稱呼は後世まで傳へられたものであると論じ、「華」「中」の稱呼は、この地が古代支那の最も勝れた文化の中心であるため、華夏・中華と熟し、地理的、文化的に天下の中央地域を意味する稱呼が慣用されるに至つたと述べてゐる。著者がこの結論を得る迄には、我國を始め古代バビロン・埃及・印度に類似の思想あることを指摘し、地名としての「夏」に特に綿密無比の考證を加へ、その地域を明瞭にせんと努力してゐる。この點に著者の一見識がある。著者は斯くて極めて實證的態度を採ることによつて、歴史家としての自らの立場を固く持してゐるのである。

次に中華思想の特質を考へ、中華思想には特に注意すべき顯著な一特質がある。即ちそは道德的政治思想・王道政治なる要素である。これ他の類似の思想に於て見るべからざることであると喝破してゐる。即ち「支那は文化的にも地理的にも世界の中心であり、支那の君主は世界に於て最も勝れ、且つ世界に君臨する帝王なり」と考

へることである。著者はこれを中華思想の政治的要素と考へ、幾多の興味ある例證を擧げてこの事實を説明してゐる。熟讀傾聽すべきである。

次に著者は「中華思想の史上に於ける發現」と題し、萬里長城に對して、著者獨特の見解を述べてゐる。この見解は既に著者が「支那學」三卷一號に發表してゐるのであるが、長城を以て「文明世界と野蠻世界とを區分する境界線」と考へ、中華思想の民族性心理の然らしむる所と斷じてゐる。

本書の論述する所多方面に涉り、支那古代史上の種々の問題に對しては、博引旁證至らざるなく、眞に有益なる示唆に富んでゐる。東洋史を大觀すれば、南北兩民族の鬭争、華夷の對立交渉の歴史であると思ふ。斯る觀點の下に東洋の歴史を考察する時、誰人も中華思想につき深く思を致さねばならぬ。然るに今日迄これに關して注目するに足る研究・論著あるを聞かぬ。本書はこの意味に於て、今後盛んに論議さるべきこの種の問題に對する一の捷徑ともなり、指針ともなり、又權威ともなるべき絶好の名著である。著者に對し敬意を失したる點は切に御寛容を希ふ次第である。

(藤 田 至 善)